今年は2,329足の運動靴をケニアの子どもたちに贈った。「これをきっかけに、子どもたちの生活や気持ちに少しでも変化が生まれれば」

特別レポート

高橋尚子さん 新たな国際協力のステージへ

～JICA オフィシャルサポーターに就任～

現役引退後、ケニアの子どもたちに運動靴を贈る「スマイル アフリカ プロジェクト」などを通じて、国際協力に取り組んできた高橋尚子さん。自分の目で見た途上国の現実をより多くの人に伝えたいと、今年9月、JICAのオフィシャルサポーターに就任した。

「アジアや中東など、いろんな国に行ってみたい」とQちゃん。「2016年夏季オリンピックの開催国ブラジルが直面しているアマゾンの環境問題にも関心があります」

JICAがケニアで実施中の「ケニア理数科教育強化計画プロジェクト」を視察。「JICA専門家の方のアドバイスを参考に、現地の先生が子どもたちの反応を見ながら楽しい授業をしようと工夫しているのが印象的でした」

日本に国際協力を広めるために

「皆さん、今日はお集まりいただきありがとうございます！」

9月9日、東京都千代田区のJICA本部。新聞社やテレビ局の記者が集まる会議室に入ってきたのは、日本人にはおなじみの、あのはじけるような笑顔の女性。一瞬のうちに、その場の雰囲気がぱっと明るくなった。

「JICAオフィシャルサポーターに就任させていただくことになりました。高橋尚子です！」

そう、この日のゲストは、シドニー五輪女子マラソン金メダリストのQちゃんこと、高橋尚子さん。今回、3人目のJICAオフィシャルサポーターの誕生を受けて、メディアを対象に記者会見が行われたのだ。

JICAオフィシャルサポーターは、日本の人々に開発途上国の現状や国際協力について知ってもらうべく、JICAと協働で広報活動に取り組む著名人のこと。世界各地でJICAのプロジェクトやJICAボランティアの活動を視察し、帰国後に国内で国際協力関係のイベントはもちろん、それぞれの活躍の場で報告会などを行う。

すでに、2002年からプロテニスプレーヤーのクルム伊達公子さん、04年からサッカー解説者の北澤豪さんがサポーターとして活動中。JICA事業の視察だけでなく、現地の子どもたちを対象にテニスやサッカーの教室を開くなど、それぞれの強みを生かした「スポーツを通じた国際協力」も展開中だ。

ケニアで出会った子どもたちから学んだこと

Qちゃんと国際協力―。もしかしたら、なぜ?と思う人もいるかもしれない。しかし現役引退後、「これまで応援してくれた人たちに恩返しがしたい」と、彼女は草の根レベルでの社会貢献活動をライフワークの一つとしているのだ。

その一つが、アフリカ・ケニアで実施中の「スマイル アフリカ プロジェクト」。今年で3年目を迎える〝Qちゃんスタイルの国際協力〟。ケニアをはじめとする途上国では、貧しさ故に靴が買えない家庭も多い。しかし、はだしでは足からばい菌が入ってしまい感染症にかかってしまう―。その事実を知ったQちゃんは、環境雑誌『ソトコト』と協働で「スマイル アフリカ プロジェクト」をスタート。ケニアの子どもたちに笑顔で元気いっぱい走り回ってもらいたいと、日本の家庭の靴箱で眠っているきれいな運動靴を集めて、ケニアの子どもたちに贈っている。

「初めてキベラスラム※の子どもたちに出会ったとき、その悲惨な状況に涙が止まらなかった」というQちゃん。おなかいっぱい食べることもできない、学校にも行けない…。地面はぬかるんでいて、〝走る〟なんて、とても危険でできなかった。「少しでも彼らが未来に光を見ることができるようになれば」。そんな思いで活動に取り組んできた。JICAもその思いに協力したいと、靴の配布先として青年海外協力隊の活動地を紹介するなどの協力を続けてきた。

途上国のことを分かりやすく伝えたい

今年8月、1年3カ月ぶりにケニアの地を再び踏んだQちゃん。「靴をもらった子どもたちにどのような変化があったのかを見に来ました」。彼女にとって3回目となるケニア。自分のやってきたことがどう形になっているのか、不安と期待でいっぱいだった。

でも現地では、彼女が想像する以上の変化が起こっていた。靴をもらって〝走ること〟への喜びを知った子どもたちは「ランニングクラブ」を結成。自分自身の足で未来を開拓する一歩を踏み出していたのだ。「子どもたちのパワーはすごい。彼らがもっと前に進んでいけるように応援し続けていきます」と誓った。

今回の訪問中、QちゃんはJICAのプロジェクトも視察。青年海外協力隊の長谷川幸子隊員（環境教育）の活動先の一つ、ナロク小学校では子どもたちと一緒に川での水くみも体験した。「こんなに重いものを毎日運んでいるなんて…」と驚いた様子。厳しい現実を目の当たりにしながらも、「彼らは水のありがたみをよく知っている。水道から水が出るのは〝当たり前〟ではない。ここには、日本の子どもたちが学ぶべきことがたくさんあります」と話していた。

これからは「スマイル アフリカ プロジェクト」と並行して、JICAのオフィシャルサポーターとしてさまざまな国・地域に足を運ぶことになるQちゃん。「日本の皆さんに、国際協力について分かりやすく伝えられるように頑張りたい」と意気込む。さらに、「私の得意分野はやっぱりマラソン。途上国で走ることの楽しさも伝えられたら」と目を輝かせる。

これから〝Qちゃんスマイル〟が、途上国で懸命に生きる人々にたくさんの元気を与えていくことを期待したい。

「スマイル アフリカ プロジェクト」の一環として毎年開催される「ソトコト サファリマラソン」のフロントランナーも務めるQちゃん。「スポーツの基本は準備体操です!」。今年は東日本大震災を受けて「チャリティーラン」が行われた

長谷川隊員の活動先の子どもたちと水運び。「頭に乗せたら軽く感じますね。なるほど!」

※ケニアの首都ナイロビにあるアフリカ最大のスラム街。